

■ 『羅生門』 言語活動 1 評価の観点

評価規準	評価基準		
	A【十分満足】	B【おおむね満足】	C【改善の手立て】
1 知識・技能			
文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 〔(1)エ〕	小説末尾の文章の意味を、正確に文脈の中で理解することができる。	小説末尾の文章の意味を、おおむね文脈の中で理解することができる。	文章の意味は、個々の文の意味を単に合わせたものではなく、文脈の中で形成されることを理解させる。
2 思考・判断・表現			
「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。〔B(1)ア〕	改稿前と後の文章による印象の違いに気づき、それぞれ正確に解釈することができる。	改稿前と後の文章を、それぞれ矛盾なく解釈することができる。	老婆の着物を剥ぎとった下人の行動が、改稿前と後の文章では、それぞれどのように位置づけられるかを考えさせる。
3 主体的に学習に取り組む態度			
積極的に改稿前と後の文章の印象の違いを捉え、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	率先して周囲と協調しながら根拠立てて話し合いに取り組んでいる。	学習課題を踏まえて周囲と協調しながら話し合いに取り組んでいる。	周囲の考えを参考にしながら話し合いに参加するように助言する。

■ 『羅生門』 言語活動 2 評価の観点

評価規準	評価基準		
	A【十分満足】	B【おおむね満足】	C【改善の手立て】
1 知識・技能			
文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 〔(1)エ〕	下人のその後を、正確に文脈の中で解釈しようとしている。	下人のその後を、おおむね文脈の中で解釈しようとしている。	文章の意味は、個々の文の意味を単に合わせたものではなく、文脈の中で形成されることを理解させる。
2 思考・判断・表現			
「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。〔B(1)イ〕	下人の人物像と心情変化を正確に理解したうえで、自らの解釈を文章にすることができる。	下人の人物像と心情変化をおおむね理解したうえで、自らの解釈を矛盾なく文章にすることができる。	下人の人物像と心情変化を再確認させる。
3 主体的に学習に取り組む態度			
積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って自分の考えを文章にしようとしている。	積極的に自分の考えをまとめ、他者にわかりやすく文章化できている。	指示に従って自分の考えを整理し、文章化できている。	ノートやワークシートをもとに課題に取り組ませる。

■ 「探究の扉 今昔物語集」言語活動 1・2 評価の観点

評価規準	評価基準		
	A【十分満足】	B【おおむね満足】	C【改善の手立て】
1 知識・技能			
言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。〔(1)ア〕	『羅生門』と『今昔物語集』の関係性を知ること、言葉には文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを十分に理解することができる。	『羅生門』と『今昔物語集』の関係性を知ること、言葉には文化の継承、発展、創造を支える働きがあることをおおむね理解することができる。	『羅生門』の成立背景を調べさせる。
2 思考・判断・表現			
「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕	『羅生門』と『今昔物語集』における描写の違いを丁寧に考察することにより、『羅生門』の解釈を十分に深めることができる。	『羅生門』と『今昔物語集』における描写の違いを考察することにより、『羅生門』の解釈を深めることができる。	『羅生門』と『今昔物語集』で異なる箇所を再確認させる。
3 主体的に学習に取り組む態度			
粘り強く『羅生門』と『今昔物語集』の差異を見極め、学習課題に沿って考察しようとしている。	主体性をもって粘り強く考察している。	学習課題を踏まえて粘り強く考察している。	これまでの学習を振り返って課題に取り組むように促す。